



森林ふれあい情報 令和3年12月 第57号

林野庁 中部森林管理局 木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL : 0264-22-2122 FAX : 0264-21-3151
E-mail : kiso-fureai@maff.go.jp

令和3年度教職員を対象とした森林・林業学習会の開催

8月3日（火）、木曾郡内の小中学校の教職員を対象に、『森林・林業の役割や森林環境教育の重要性について認識を高めていただくとともに、森林環境教育を学校教育の中に積極的に取り入れていただくこと』を目的として、木曾郡上松町の赤沢自然休養林（小川入国有林）で教職員を対象とした森林・林業学習会を開催しました。当日は、教職員3名と関係機関から1名の参加があり、一般公開をしていない学術研究路を案内しました。

参加された教職員からは、「貴重な資源として引き継いでいきたい」、「地元でもあり歴史、キャリア学習、自然学習、ふるさと学習など、学校教育に取り入れたい」、「地元の子供たちにも学んでほしい」との感想が寄せられました。

参加された小学校の先生から、「三重県の伊勢神宮へ修学旅行を計画している。事前学習として、式年遷宮の行事として執り行われた御杣始祭（みそまはじめさい）で御樋代木（みひしろぎ）を伐採する様子の動画を貸してほしい」との要望があり貸し出しをしました。



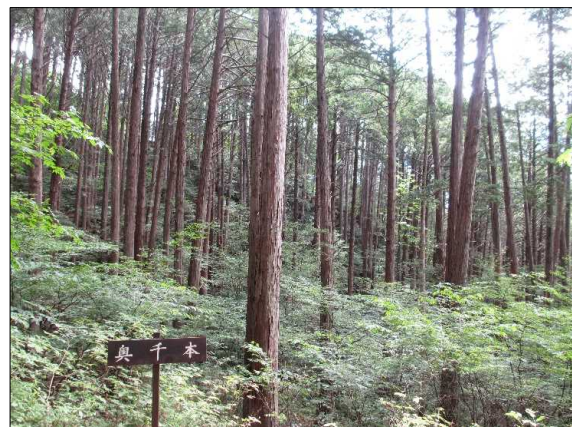
森林鉄道終点駅で木曾五木の説明
木曾五木とは、ヒノキ、サワラ、ネズコ、コウヤマキ、アスナロをいいます



倒木に芽生えたヒノキの稚樹について説明



昭和60年に執り行われた第61回御杣始祭で御樋代木を伐採する様子をタブレットで視聴する参加者



木曾の山の中でもずば抜けて見事な木曾ヒノキの美林

木曾駒ヶ岳の植生復元の実施

9月27日（月）、上伊那郡宮田村の黒川国有林（木曾駒ヶ岳）で、平成17年から当センターが主体となって行っている高山植物の植生復元作業を行いました。

例年は、長野県、伊那市、宮田村および関係森林管理署等の応援を得て行っています。今年は新型コロナウイルスの感染防止対策の観点から合同での作業を中止としましたが、事前に作業地選定のため現地に登った際に資材の一部を運搬し、駒ヶ岳管理センター（避難小屋）に仮置きをさせていただいていたことから、南信森林管理署の応援を得て作業を実施しました。

今年の作業地は、八丁坂登山道から尾根道に出た乗越浄土と伊那前岳9合目で行いました。特に乗越浄土は、木曾駒ヶ岳、宝剣岳、伊那前岳方面への分岐点となるため、多くの方が休憩をする場所でもあり、作業の目的や内容を尋ねられたり労いの言葉をいただきました。

復元作業の現場を視覚的に認識できることから、登山道以外への無秩序な踏み込みの抑止と共に、表土の保全や種子の保持等、植物の生育に対する期待もできることから、今後も継続して実施していく考えです。

乗越浄土での作業風景



植生マットの敷設状況



採取した種子の播種状況



完了した作業地

伊那前岳9合目での作業風景



植生マットの敷設状況



採取した種子の播種状況



完了した作業地

令和3年度森林ボランティア・NPO連携推進会議の開催

9月30日（木）、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が塩尻市の長野県林業総合センターで開催されました。

当日は、ボランティア団体・NPOから13名、森林管理局署等から9名の参加があり、県林業総合センターの職員の案内により研究林を見学しました。この研究林では毎年、森林整備の研修が行われており、ベンチやブランコ、東屋等有資格者（チェーンソーによる伐木等特別教育受講者等）を中心に制作され、その作品は「年を重ねるごとにバージョンアップがされたもの」となっているとのことでした。

その後、三班に分かれワールドカフェ方式により、「この会（連携推進会議）をどうする？」というテーマで意見交換を行いました。

各班からは、「ボランティア団体の交流の場として継続する」、「未参加団体への参加の呼びかけと情報提供を行う」、「やりがいを感じられる内容とする」等の意見が出されました。



研究林で説明を受ける参加者



バージョンアップされた東屋（右上）



江戸時代に作られた野生動物の侵入防護土手



現代の防護柵



ワールドカフェ方式による意見交換の様子



班のとりまとめを発表する今年度採用の南信署員

木曽の国有林見学会令和3年秋季の開催

令和3年10月29日（金）、木曽郡上松町の赤沢自然休養林（小川入国有林）で 21名の方に参加をいただき国有林見学会を開催しました。

当日は穏やかな天気で、昭和50年まで木曽の山中で活躍していた森林鉄道（片道約1.1km）に乗車し、終点駅まで車窓からの景色を楽しみました。車窓からは色づき始めたシロモジなどの広葉樹が日差しに照らされ綺麗でした。

参加者は4班に分かれ、名古屋事務所、木曽森林管理署および当センター職員の案内により林内散策を行いました。



森林鉄道の車窓からの景色



森林鉄道終点駅で木曽五木の説明



サワラ産で「タルとオケ」について説明
タル：板目で制作。板目は水分を吸収しにくく蒸発させにくい性質から酒や醤油等の貯蔵に使用します
オケ：正目で制作。正目は水分を給しやすい性質から、中身の出し入れが頻繁にある風呂桶やすし桶等に使用します



ヒノキ大樹の説明



御樋代木の伐採の様子をタブレットにより説明をする今年度採用の木曽署員



平成29年の斧入れ式の様子（上松町小川入国有林）
斧入れ式とは令和15年の式年遷宮に向け御用材として用いるヒノキ（樹高28m 直径58cm）を初めて伐採する神事